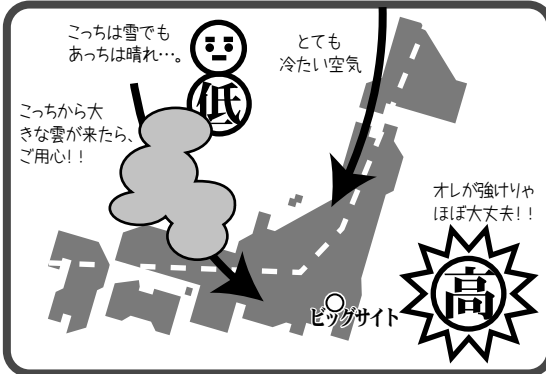


■■こみけさんかしゃの雨と雪■■

関東では冬に雨が降る日は少なく、年内に雪が降ることはさらに少ない。しかし、これまでにコミケットの期間中に降ったことは数回ある。そしてコミケットで雨が降ると色々悲惨なことになるのだ。だから、可能性は低くても一応の対策はしておくべきである。できるかぎりミニマムに、いざというときのための備えを考えてみよう。

■西高東低なら安心？■

いつ何時ゲリラ豪雨や夕立に見舞われるかもしれない夏と異なり、幸い冬の関東はかなり天候が安定している。そのために、コミケが近づいてきたら東京の気象情報に注目しておけば、全体としての傾向は把握することが可能だ。基本的には雨の心配はない日が続くが、それでも不安定な天候予測が出ているならしっかりした装備を用意しておいた方がいいだろう。



●左の図のように、日本列島の中央を境に、太平洋上に高気圧、日本海側に低気圧が分布している状態が気象情報でおなじみ『西高東低（せいこうとうてい）』の気圧配置だ。

こういった状態になっていて、北海道や東北の上や、朝鮮半島の上辺りに関東方面に伸びる雲の帯が見られなければ、概ね天候は安定していて、雨の可能性は低いと判断できる。逆に、太平洋上の日本近海に低気圧がある場合には、雨の可能性が高めとなる。

■雨は1枚で防ぐ！

幸い、冬の場合、たとえ雨が降っても、夏のように降りはじめから一気に叩きつけるような豪雨となることはごくまれなので、ある程度余裕を持って対応することができる。

もともと冬の防寒対策をきちんとしていれば、多少の雨がばらついて、戦利品を最優先で守ればなんとか切り抜かれる。しかし、当然ながら服も身体も濡らさない方がいいので、暫く雨や雪の中で待機していなければならぬのであれば、ポンチョを防寒着の上からまとう。荷物を覆う大判のビニール袋と、アナタを覆うポンチョ。とにかくこの2アイテムだけは、最低限用意していこう。

（ポンチョは寒さが特に厳しければマント代わりの防風防寒着にもなる）



●自分の体調、把握できてますか？

真夏の熱中症に比べると、冬場の懸念である低体温症は発生件数も比較的少なく、コミケットくらいの環境下では重篤化もしにくい（例外はルールを守らず一晩中屋外で過ごし続けた場合だ）が、逆に冬は様々な『地味な健康リスク』が満載でもある。毎冬恒例インフルエンザ、単純に風邪をひく、乾燥した空気や埃で喉を痛める、寒い場所で長時間立ったり座ったまままでいて足が攣（つ）る、腰やお腹の冷えから来る腹痛や下痢……。暑い時期よりも、傾向的に寒い時期の方が疲労も感じやすい。

これらは1つ1つはクリティカルな体調不良ではない分、少し無理をすれば大丈夫、と考えてしまいがちだが、同時に、重複して発生しうるものであることも見落としてはならない。体調は我慢しているうちに、どんどん悪化していくものなのだ。

会場では定期的に休憩をとって水分とカロリーを補給し、体調をチェック。何らかの不調や、異様に眠い、だるいなどと感じたら、その時点で帰宅しよう。家までの道のりも踏破しなくてはならないのだ。『無事帰宅するまでがコミケットですよ！』（今野武士風に）